

## 岩城光英の永田町だより vol.266

10月、神無月になりました。この月は、全国の神様が出雲に集まり、各地の神社で神様が不在になることからこう言われているようです。そして、出雲では神有月と呼ばれるそうです。台風一過、秋の空が広がって、ようやく過ごしやすくなりました。

先月26日、自民党の総裁選挙が投開票されました。結果は、ご承知のように、40年ぶりの決選投票となり、安倍候補が石破候補を破り、総裁の座に就任しました。

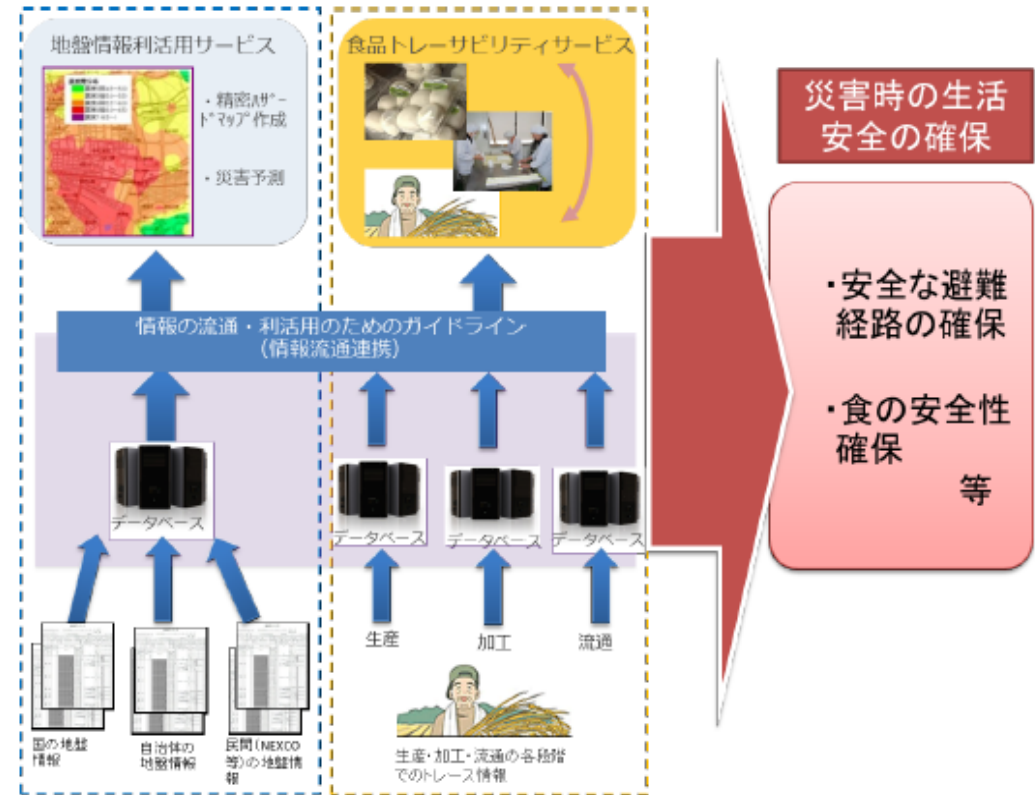
今回、私は町村信孝候補を推薦いたしました。私が内閣官房副長官を務めた時の上司の官房長官であり、ご指導をいただきました。外務・文部科学大臣などを歴任され、豊富な経験や識見を有しています。選挙戦の最中に体調を崩したこともあり、決選投票には残れませんでした。公約として第一に福島復興を掲げていただけに、残念な思いが致します。

安倍総裁には、「福島復興第一に」との強い思いで、福島が抱える課題に取り組んでいただきたいと願っています。その為にも、挙党体制を築き、民主党から政権を奪還することが第一歩だと考えます。

さて、今号は、情報通信を活用した安全確保についてお知らせいたします。

### 「情報流通連携による災害時生活安全確保事業」について

東日本大震災を契機として、安全な避難経路の確保や食の安全性確保等、防災・減災対策の重要性が見直されてい



ます。ICT（情報通信技術）の利活用による情報流通連携を促進し、災害時においても生活の安全を確保するための取組を推進しようとするものです。

- ① 災害時の生活安全の確保に向け、精密ハザードマップの作成等と実現するための地域情報を活用したクラウドサービス（インターネットの各種サービス）の開発を推進すること
- ② 食の安全確保のため、食品トレーサビリティ情報の効率的な記録・活用を推進すること

今年度は約60億円の予算規模のようですが、いち早く災害関連の情報を伝達する必要があります。

## 「格の違い」

### 北野湘南

民主党、自民党の代表、総裁選挙が終り両党とも党役員人事も決定し新執行部がスタートした。この選挙戦の中で自民党の各候補は、外交、防衛、経済運営など国の根幹に関わる問題について熱く語ったのに対して、民主党は党内の分裂問題など内輪のことばかり。どちらが政権を担うに相応しい政党か？ 多くの国民の眼にもはっきりしたろう。

民主党の代表選に立候補したのは野田首相の他に原口元総務相、赤松元農相、鹿野前農相の4人。野田首相の対抗馬はいずれも閣僚経験のある民主党の重鎮。この選挙中に中国では、反日デモが荒れ狂い日本大使館にペットボトルが投げ込まれ、国旗も焼かれた。暴力を受けた日本人も少なく無い。日本企業の工場が焼かれデパート、スーパーなどでは多くの商品が略奪された。被害額は数百億円に上るとされる。さらに尖閣諸島には10隻もの中国艦船が日本の海域すれすれに航行するなど、中国の行為は国際法的にも許されるものではない。ところが野田首相は、もとより他の候補も「領土問題は存在しない」とオウム返し発言を繰り返すだけで明確な解決策は示せなかった。

長期化する超円高、脱却の見えないデフレ等のため日本企業の海外進出は進む一方。産業の空洞による日本経済の衰退も深刻化しているが、経済問題にも民主党の代表選では言及する候補が殆どいなかった。野田首相に対抗した3人が訴えたのは「野田代表になってから70人もの離党者が出た」「このままでは民主党は壊滅する」などの内輪の話ばかり。4人の候補が顔を並べた新宿の演説会では野次が飛び交い、演説が聞き取れないほど。国難ともいえる非常時

に遭遇しているにも関わらず党内の内輪話の明け暮れに呆れ返った聴衆が、激しい野次を飛ばしたのだ。

自民党の安倍元首相、石破前幹事長、石原幹事長、町村元官房長官、林政調会長代理の5人の立候補は、ニュアンスの差はあったが、5人とも尖閣諸島問題の根底にあるのは、鳩山政権の時に普天間基地を巡って日米機軸同盟に亀裂が入ったことと指摘。これを解決するには、日米機軸同盟を再構築することとした。また、防衛力を強化し、集団的自衛権を認めるべき時期に来たとの踏み込んだ発言も多かった。集団的自衛権は、米国の護衛艦や部隊などが攻撃を受けた非常時に、自衛隊がこれを助けるために防衛力を発揮することだが、現行では認められてない。尖閣諸島の情勢を見れば集団的自衛権が認められなければ日本の領土を守れないことがはっきりする。

自民党の総裁選でどの候補も外交・防衛だけでなく低迷する経済の再建、東日本大震災からの復興といったことにも明確な指針を示した。最悪となった日中関係をどのように打開するのか、そして日本のあるべき形を熱く語る候補者。街頭演説会で多くの聴衆が、熱心に聞き入っていたのも当然だろう。安倍氏の当選が決まると谷垣前総裁は「私は影にまわる」と後を安倍総裁に託した。石原、町村、林の3氏は決戦投票で誰に入れたかも「決まったことに一致団結して協力する」として明かさなかった。政党のあるべき姿とはどういうものかを示し、多くの国民は感嘆したろう。今でも党運営に鳩山、菅の両氏が口を挟み、敗れた後も党で決めた消費税の引き上げに反対を繰り返す民主党と好対照だ。自民、民主では政治家の資質、能力どれをとっても「格が違う」ことを見せつけたといえよう。